事業報告概要書（公表版）

公表様式

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都市部の公園･北部グループ	(指定管理者名)公益財団法人　東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1　～　R5.3.31(7年間)	

2　施設名

戸山公園・善福寺公園・高井戸公園・浮間公園・赤塚公園・石神井公園・大泉中央公園

3　収支(単位:千円)

項目		令和３年度 金額	令和２年度 金額
収入　計		711,050	694,477
内訳	指定管理料	711,050	694,477
	利用料金	0	0
支出　計		700,227	691,356
収支差		10,823	3,121

公園別支出額

戸山公園：128,691　善福寺公園：61,658
高井戸公園：35,918　浮間公園：97,454
赤塚公園：141,234　石神井公園：153,210
大泉中央公園：82,062

4　管理運営の概要

基本理念：　水と緑の宝石箱　～地域と共に磨き、輝く～

【築く】　公園の持つ機能・役割を守り、地域の安全・安心を高める
・高井戸公園の追加開園に伴うルール整備や、石神井公園での不法屋台対応、戸山公園の広場利用調整等、幅広い適正化を図った。
・計画的な樹木管理や、施設の点検・補修、防災訓練やイベントを通じた災害対応力の向上等、安全・安心な環境を整えた。

【磨く】　都立公園としての魅力を更に高め、次世代に継承する
・都民協働による希少な動植物保護や外来生物防除、イベントやSNS等を通じた普及啓発によって、生物多様性を推進した。
・公園の自然や歴史を活かしたメディア誘致や、地域の図書館や郷土資料館、鉄道会社等との連携イベントで魅力を広く発信した。

【輝く】　多様なニーズに的確に対応し、公園を核に地域の活力を高める
・地域の自治体や民間企業、NPO等と連携した協議会を立ち上げるなどして広く地域と連携しながら、地域ニーズを汲んだイベントや広場づくりを展開することで、多世代交流の促進や、地域の賑わいづくりに繋げた。
・子どもボランティアや、特別支援学校等との連携を通じて、快適な空間形成や、新たな魅力づくりを推進した。

5　管理状況（維持管理）

・新規サービスセンターのオープンに合わせて、広場の樹木、ベンチ、ロープ柵等の一体的なリニューアルを推進し、地元の江戸園芸植物「大久保ツツジ」を補植することで、ホームレスが滞留しにくい、開放的な空間を創出した。（戸山）
・エリマネで組織したボランティア「うきうき隊」や、東京農大のゼミ生や近隣8保育園等延べ500名と協働し、園内にコミュニティガーデンを整備した。（浮間）
・追加開園した芝生地におけるガラ石、オニアザミ等の支障物について、地域の親子連れと協働した「石ひろい隊」や「オニアザミパトロール」よって（約1000株除去）、事故や苦情をゼロに抑え、多くの感謝の声を頂いた。（高井戸）
・SDGsに基づき、ボランティア等との協働によるゼンプクジアザミ・ニリンソウ・イヌタキモ等の希少動植物の保全や（善福寺・赤塚・石神井・大泉）、ミシシッピアカミミガメやブルーギル等外来種の駆除を推進した（善福寺・浮間・石神井）。
・外来種のコンポストによるたい肥化や、剪定枝等発生材のチップ化によって園内循環を促進するとともに、環境や美観の向上を図った。（全公園）
・台風や降雪等の気象災害対応とともに、荒川下流域氾濫に備えたタイムライン訓練を実施し対応力を向上した。（全公園）

6　利用者アンケート結果

実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
戸山公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.9
善福寺公園	4.9	4.9	4.7	4.8	4.9
高井戸公園	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8
浮間公園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.8
赤塚公園	4.9	4.9	4.8	4.7	4.8
石神井公園	4.6	4.6	4.5	4.7	4.7
大泉中央公園	4.9	4.8	4.8	4.9	4.9

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
戸山公園	1,138,979	演劇や、地元の「内藤とうがらし」「大久保ツツジ」の栽培等を通じて地域一体となった賑わいを創出した。
善福寺公園	1,030,831	新たに10団体と連携した「60周年記念」事業を一年を通じて展開し、善福寺の魅力を広くPRした。
高井戸公園	586,504	地域の親子連れと「あおぞら会議」を通年開催し、ニーズ反映とともに、利用者の管理参画を促進した。
浮間公園	1,094,687	協議会やボランティア組織の設置より、地域の自発的な企画・取組を促し、様々な多世代交流事業を展開した。
赤塚公園	889,666	コロナ禍でも対策を徹底することでアートイベントを安全に運営し、地域の期待に応え、賑わいを創出した。
石神井公園	1,942,679	隣接する区道上の不法屋台を警察や区との連携によって排除し、20年来の地域の懸念材料を解消した。
大泉中央公園	348,994	新たに特別支援学校とコラボしたアート展を開始し、一般来園者との相互の触れ合いや理解促進に寄与した。
合　計	7,032,340	

戸山公園

所在地：新宿区／開園面積：18.64ha

戸山荘をはじめとした歴史・文化の発信と五輪を契機とした安心・安全・健やかな公園づくり

地域みんなで育てよう！　地元の江戸園芸植物と江戸野菜

事業計画 №3-②-59、③-12、№4-都-1／評価区分 22

「大久保ツツジ」で地域の魅力アップ

地域の江戸園芸植物「大久保ツツジ」を、地域の小学校や道路、各ご家庭の庭にも広げ、地域を盛り上げていく取組として、新宿区と連携した「挿し芽」講座を実施しました。さらに、**各ご家庭で育った苗を公園に里帰りさせることで、新たな「大久保ツツジ花壇」を整備**し、ビュースポット創出と、地域のシビックプライドの醸成にも寄与することができました。

大久保小学校での植栽体験会

「内藤トウガラシ＆内藤カボチャ」の復興

早稲田大学の学生NPOと「**内藤新宿とうがらし戸山公園プロジェクト**」を結成。地域の江戸野菜の復興と普及啓発を目指す花壇は、NHK「おはよう日本」等の取材もありました。また、内藤とうがらしの新たな可能性を探るため、多方面からの研究発表会を開催し、**大学教授による江戸野菜の振興事例や、地元の製菓専門学校によるとうがらしレシピ等**を地域の皆さんと検証しました。さらに、**新たな取組として「内藤カボチャ」の苗を入手**し、夏のグリーンカーテンやハロウィンに活用し、地域に根差した江戸野菜を広くアピールすることができました。

段々畑のとうがらし花壇

コロナ禍に応じた利用調整と適正化でみんながハッピー

事業計画 №3-②-77／評価区分 1

コロナ禍の広場需要に応える利用調整

コロナ禍での屋外スペースの需要の高まりを受けて、少年野球リーグ（8チーム）との利用調整を行いました。**20年来の利用で、一部既得権益のように捉えている向き**もありましたが、粘り強い指導と調整で譲り合いの意識づけを徹底し、使用時間や面積を従来の2／3程度に縮小し、オープンスペースを拡充。併せて、安全対策を改めて見直すことで、**周囲の利用者の理解も得て、双方が安心して利用できる環境を整える**ことができました。

様々な利用に供する広場へ

「大久保　みんなの笑顔プロジェクト」による空間創出

事業計画 №3-③-33／評価区分 2

みんなの笑顔が溢れるいきいき空間

新サービスセンターのオープンに合わせて、芝生広場をリニューアル。これまでのホームレス対策に加えて、施設改修や樹木整理等を戦略的に実践することで、戸山公園らしい、**多様な世代や国籍の利用者が集う、いきいきとした空間の創出**に成功しています。

①『開放的な空間づくり』

広場に張り巡らせた**立入禁止のロープ柵（総延長520m）の撤去**や、一部低木の移植によって、オープンスペースを拡充しました。作業にあたっては、**ツミやオナガ等の戸山公園に集う野鳥の営巣時期を避けるなど、生態保全にも配慮**しています。

②『明るい空間づくり』

実生木除去や下枝剪定等により、**公園に入った際に視界が大きく開ける**よう工夫。さらに、メインエントランス近くに「大久保ツツジ」を補植することで、新たな名所を創出しました。

③『誰もがくつろげる空間づくり』

ベンチのデザインを一新することで美観向上と、寝そべり防止を図るとともに、都・区・福祉団体と連携したホームレスの自立支援によって滞留を防止しました。また、インターロッキングの不陸補修を行うことで、**バリアフリーにも配慮**しました。

明るく広々とした空間を創出

ベンチ改修によりホームレス等の滞留を防止

箱根山の新たな魅力を創出、PRする取組

事業計画 №3-②-42・89、№4-イ-3・自-5／評価区分 20、23

学生コラボによる新たな取組、演劇公演

新たに陸軍戸山学校・野外演奏場跡地を活用して、**早稲田大学のサークルとコラボした演劇**を初開催しました（全6公演）。公園職員が劇中に出演し、箱根山の歴史をPR。演奏場跡地の音響効果は抜群で、学生をはじめ近隣住民等、**10代～70代まで幅広い年齢層の方延べ110名**が観覧され、新たな文化交流の場を提供できました。コロナ禍で発表の場が激減してしまった学生救済にも繋がり、大変感謝されました。

早大サークルとコラボした演劇

図書館やJR新宿駅にPRブースを設置

新たに、新宿区歴史博物館や**戸山図書館**と連携し、歴史企画展や史跡巡りガイドを実施。さらに、**JR新宿駅の「駅からハイク」を箱根山まで誘致し、駅構内に戸山公園のPRブース**を設置するなど、広く魅力発信を行いました。また、地元の四谷小や牛込中野小の校外学習の受け入れや、外出自粛される方などに向けた**バーチャルガイドの充実や、天気予報中継の誘致**にも努めるなど、公園の魅力を多角的に発信しました。

駅員さんも一緒に公園の魅力をPR

善福寺公園

所在地：杉並区／開園面積：8.02ha

武蔵野三大湧水池の景観と
自然・歴史・文化の次世代への継承

地域でお祝い！　善福寺公園「開園60周年記念事業」

事業計画 №3-②-7・83、№4-イ-3・都-2　／評価区分 20、22

多様な主体との協働によるイベント展開

関係自治体やNPO、民間企業など**多様な10団体と幅広く連携した協議会**を設置し、一年を通じた様々なイベントを展開。近隣小学校と協働製作した「**60周年記念花壇**」や、日本野鳥の会と連携した「**善福寺公園バードウイーク**」、日本唯一の野鳥図鑑画家の「**谷口高司作品展**」や、地元住民や井草八幡宮より約140点を収集した「**思い出写真展**」などを実施し、善福寺の魅力を広く周知するとともに、さらなる愛着を深め、将来を考えていただく機会を提供しました。

貴重な写真や資料が並んだ思い出写真展

「60周年記念フェスティバル」の開催

「**60周年記念フェスティバル**」では、10団体の強みを生かしたブースを展開しました。区や環境公社による善福寺公園と周辺河川等との繋がりの解説や、都環境局による外来種やエサやりがもたらす環境悪化の解説等を通じて環境意識を普及啓発するとともに、双眼鏡メーカーによる高性能望遠レンズを用いた野鳥観察会や、NPOによる一日水族館など様々なアプローチで、来園者に善福寺の豊かな環境を感じてもらい、**未来に向けて、考え、守っていく、ムーブメント**を起こすことができました。

60周年記念フェスティバル

次の60年を考える「善福寺公園シンポジウム」

事業計画 №3-②-83、№4-自-2／評価区分 23

善福寺公園にまつわるレジェンドが集結

60周年事業の総決算として、**地元が輩出したレジェンドとともに、次の60年を考えるシンポジウム「善福寺池、人と、鳥と。過去と、未来と。」**を開催しました。コロナ禍のため残念ながらWEB配信となりましたが、 各登壇者には、鎌倉以来の地域の歴史や、風致地区としての魅力、野鳥をはじめとした豊かな生態系、公園管理といった様々観点から講演いただき、善福寺公園の未来についてみんなで考えていく機会を提供することができました。

善福寺が生んだレジェンドとメッセージを発信

地域の豊かな生態系を守り、育てる

事業計画 №3-②-48・③-5・6／評価区分 6

希少固有種「ゼンプクジアザミ」の復活！

H29年に東京女子大で新種の「ゼンプクジアザミ」が発見され、うち３株を園内で保護してきましたが、順調に株分けが進んだことから、開園60周年を記念して、一部を広場に移植しました。**地域ゆかりの希少な固有種をお披露目**することで、認知と関心を高めるとともに、**善福寺公園の新たな名所**を創出。地域の更なる環境価値の向上に繋げることができました。

ゼンプクジアザミ

応援団と守る、善福寺池の豊かな生態系

善福寺公園では、日本野鳥の会や、都環境局、NPO等と意見交換しながら、専門的な見地に基づいた生態保全を推進しています。ボランティアとも協働した外来種駆除においては、ブルーギル等約1,588匹（前年比▲1,155匹）、植物約500株（前年比▲300株）と捕獲数が減少に転じ、確実に効果が表れています。また、**鳥獣保護員によるレクチャーや、地元高校生と協働したマナーアップキャンペーン**で、野鳥やコイへのえさやり防止を呼びかけました。

NPOと連携した調査と外来種駆除

善福寺公園の様々な魅力を多角的に発信

事業計画 №3-②-50・52、№4-都-1／評価区分 22、30

地域のみんなで企画、「ミニギャラリー」の活用

ミニギャラリーでは、一年を通じて、地域のみなさんとともに、企画・立案、作品募集、展示を行っています。今年度は、**延べ15回の展示会を開催し、5,014人の来場者**をお迎えし、**地域のコミュニティの活性化**にも寄与しました。新たに、地域12のオープンサロンと連携した企画展では、街の情報案内拠点としても機能するサロンのジオラマMAPを作成・展示し、地域の回遊性向上に繋げることができました。

西荻から善福寺を網羅したジオラママップ

多様な総合学習をコーディネイト

桃井第四小学校、関中学校、杉並工業高校、農芸高校など、就学レベルや科目も幅広い近隣学校の総合学習を積極的に誘致し、**ニーズに応じた多様なプログラム**を展開しました。**合計428人の生徒を受け入れ**、公園の管理業務の紹介や、業務体験等を通じて、子ども達の公園に対する理解や愛着を醸成。また、生徒達の清掃作業やマナーアップ活動が、来園者に対してもよいアピールとなり、公園の愛護精神を広く普及啓発することができました。

桃井四小1年生の園内学習

高井戸公園

所在地：杉並区／開園面積：5.93ha

武蔵野台地の開放的な空間を活かした地域活性化と健やかな公園づくり

地域と考えつくる公園　「あおぞら会議」が本格始動！

事業計画 №3-②-34・50・81・99、③-12・39、№4-自-3／評価区分 13、22、23

地域ニーズを把握し、新型遊具を導入

地域に愛され、利用者とともにつくっていく公園を目指して、**親子連れを中心にした意見交換の場「あおぞら会議」**を設置。遊具の増設に関するニーズが多いことから、**東京都の新事業分野開拓者認定制度を活用**して、カラフルな犬型遊具を導入し、大人気コンテンツとなりました。

親子連れを中心とした「あおぞら会議」

親子防災訓練で、地域の防災力アップ

地域の防災への関心も高く、公園の防災機能を知り、かまどベンチやマンホールトイレ等の組立を行う**体験型訓練**を実施しました。**かまどベンチで焼き芋など気軽に参加できる工夫**によって、多くの親子連れが防災に関する理解を深めました。

防災施設の組立など体験型訓練

親子と一緒に「遊び場発見マップ」を作成

コロナ禍でのマイクロツーリズムも意識して、高井戸公園から自転車等で周遊可能な半径1.5km内の区立公園や図書館の、遊具、多目的トイレ、授乳室等の情報を盛り込んだ「遊び場発見MAP」を作成しました。**親子連れとの対話を重ねながら、一緒にMAPを作成**することで、実用性の高い内容を網羅し、地域の周遊性を高め、地域への愛着がより深まりました。

マップを持って散策に出発

子どもボランティアが環境改善に大活躍

「あおぞら会議」からは、**地域の主体的取組**も誕生しました。芝生上の小石を拾い集める**子どもボランティア「石ひろい隊」**は、スタンプを集めると感謝状をプレゼントするゲーム感覚の企画で、多い日は30組もの親子連れが参加する人気コンテンツとなりました。美観や安全性の向上に加えて、集めた小石をプランターの底石として活用し、**子ども達と花を植え、育てるというSDGsを意識した環境学習**にも繋げています。

子どもボラ
「石ひろい隊」

追加開園に伴う新たな課題も地域一体で対応

事業計画 №3-②-50・77、③-32／評価区分 1、５、32

子ども達と外来植物「オニアザミ」退治

新たに開園した芝生地には**トゲの鋭い外来植物「オニアザミ」**が生えていることがわかり、**開園前後で1,000株以上を除去。**しかし、地中に根が残っていると再生するため、**放課後の小学生などにオニアザミを見つけたら知らせてもらう「オニアザミパトロール」**を開始し、地域とともに安全な環境を整えました。結果、事故や苦情はゼロで、多くの感謝の声を頂きました。

子ども達の通報でオニアザミを除去

近隣の不安除去とさらなる信頼関係の構築

追加開園によって新たに生じた課題や近隣の声に真摯に向き合い、東部公園緑地事務所と密に連携しながら、解決に向けて取り組みました。住宅地と直接接することで、**夜間の騒音や犬連れマナー、新設出口から住宅街への迷い込み、周回路完成による自転車のスピード問題等**について、警察と連携した夜間を含むパトロールや掲示等による周知を重ね、安全安心な環境を確保。**近隣住民との会話や電話も、冒頭が「いつもありがとう」に変化**していくなど、管理への理解を取り付け、良好な関係を構築することができました。

犬のマナーアップキャンペーン

地域に愛される公園を目指して

事業計画 №3-②-49、③-4、№4-イ-1／評価区分 20、22

みんなでお花いっぱいの公園をつくろう

地域の親子連れや保育園と協働して、春には花苗を、冬前にはチューリップ球根を植え付けました。さらに、継続的に管理に携わってもらう工夫として、**「お水あげ隊」として子ども用のじょうろを設置**したところ、環境学習の場として保護者からも好評で、夏場でも水を切らさず、きれいな花壇を保つことができました。

保育園との植え付け

「映える」フォトスポットを子ども達と制作

親子連れへのヒアリングや、団体利用の申出等で、ハロウィンへの関心が高かったことから、サービスセンター前に**「映える」フォトスポット**を制作・設置したところ、大変好評で、引き続きクリスマスバージョンも設置しました。さらに、**「子ども達も制作に関わりたい」との声を受けて**、参加型ボード「雪だるまと虹」を設置したところ、**3日間で約300人が参加し、ツイッターは3,000以上閲覧され**、公園の魅力アップと発信に繋がりました。

子ども達が色画用紙でつくった作品

浮間公園

所在地：板橋区、北区／開園面積：11.73ha

荒川の自然・文化の発信と公園を拠点とした地域活性化

地域を楽しく！元気に！みんなでつくる浮間公園

事業計画 №3-②-30・98、№4-自-4／評価区分 23、30

「チームUkiUkiミーティング」の本格始動

昨年度の準備委員会を拡充し、**計10団体による協議会「チームUkiUkiミーティング」**を立ち上げました。自治体や地域の民間企業、NPO等、多様な主体による北区・板橋区の垣根を超えた連携で、広場づくりやイベント開催等の魅力アップ事業を推進しています。

「うきうき隊」が自発的な取組を展開

地域の親子連れを中心としたボランティア「うきうき隊」を組織し、ワークショップを重ねることで、**「“やってみたい”で描く広場の将来像」**を作成しました。このことが「うきうき隊」の**自発的な企画・取組**に繋がり、ヨガ、絵本の読み聞かせ、昔遊びなど、多世代が交流する様々な事業が展開されています。

“やってみたい”で描く広場の将来像

憩いの空間、コミュニティガーデンづくり

「うきうき隊」と構想から練って、五感・和・生き物等、**5つのテーマ毎にゾーン分けしたコミュニティーガーデン**づくりに着手。東京農大のゼミ生や、近隣8保育園等、延べ約500名の協力も得て低木や宿根草を植栽しました。さらに、**クラウドファンディングでは、昨年の50万円を上回る80万円以上の支援を獲得**し、約150名と1万球のチューリップ球根を植付けるなど、地域が一体となった取組に成長しています。

1万球のチューリップ植付け

「花と光のムーブメント」との共演

東京都の「花と光のムーブメント」とのタイアップにより、チューリップや桜、風車等をライトアップして新たな魅力を創出しました。JR等との連携によって来園者を伸ばすほか、コロナ禍を鑑み**「チームUkiUkiミーティング」の広報力を活用したSNS発信等**で、多くの方々に幻想的な光景を堪能してもらい、都事業と浮間公園の取組をアピールしました。

ライトアップされた花壇と風車

「ブルーギルバイバイプロジェクト」によるSDGｓの推進

事業計画 №3-②-46、③-10、№4-都-2／評価区分 22

活動の見える化で回収量が増加

釣人との協力でブルーギル等の外来種を回収し、たい肥化して花壇で使うことで園内循環を確立した**「ブルーギルバイバイプロジェクト」が多くのメディアに取り上げられ、著名人による応援ソングも制作**されました。認知が進み、協力者が増えたため、**回収ボックスを1基増設。**回収量は大幅に伸びました（R3実績：延べ294.6kg、昨年比+81.5kg）。

また、**日々の回収量をSNSや、子ども達向けの「ブルブルメーター」で積極的に発信**することで、釣人のモチベーションアップと、幅広い利用者層への生態保全に関する普及啓発に繋げました。

荒川の進行型水害に備えたタイムライン訓練の実施

事業計画 №3-②-80、③-14／評価区分 13

高まる水害リスクへの対応力の向上

気候変動の影響によって水害発生リスクが高まっていることを受けて、河川氾濫や集中豪雨で被害が予想される浮間公園と赤塚公園で、**水害対応BCP訓練を実施**しました。荒川下流氾濫に伴うタイムラインを作成し、光が丘公園への避難や業務継続の習熟を図ることで、災害対応力の向上と、**全社的な水害対応マニュアルのアウトライン**を作成することができました。

荒川下流氾濫を想定した浮間公園タイムライン

都事業との連携による更なる魅力アップ

事業計画 №3-②-91、③-41 、№4-自-3／評価区分 32

多目的活用プロジェクトとの連携

東京都の多目的活用プロジェクトによるコメダ珈琲の開業にあたって、不法駐輪やテイクアウトゴミ等の課題解決や、公園と一体となった賑わいの創出について連携を重ねました。オープンにあたっては無料休憩スペースでの**「浮間公園フォトコンテスト受賞作品展＠コメダ珈琲」**の開催や、チューリップ花壇でのコラボで、公園の魅力アップに繋げました。

コメダ珈琲を交えた意見交換

都工事への積極的なサポートとトラブル対応

東部公園工事課の園内造成工事や、コメダ珈琲の建設工事等が集中し、園路通行やトイレ利用にも大きな制約が生じましたが、丁寧な施工者調整と、SNS等での利用者周知によって、事故や苦情を防止しました。また、工事に伴って発生した**ナイター照明の不点や、下水管詰まりによるオーバーフロー、水道の漏水等の突発的なトラブル**にも、適切な応急措置と東部公園連携によって速やかな復旧に繋げ、利用者への影響を最小限に留めることができました。

赤塚公園

所在地：板橋区／開園面積：25.54ha

武蔵野崖線の自然、地域の歴史・文化の発信と健やかな公園づくり

コロナ禍でも子ども達に楽しい思い出を！「東京五感公園2021」

事業計画 №3-②-92、№4-自-5／評価区分 23

地域でつくるアートイベントの開催

高島平を代表するイベントに成長したアートイベント「東京五感公園」は、学校行事やイベントの中止で**ガマンを強いられる子供たちに『夏休みの楽しい思い出を提供したい』**という想いから、東部公園のご指導のもと感染症対策を徹底して開催し、**地域一体となった新たな魅力を創出**しました。地元のネット新聞「**板橋経済新聞」のページビューでも年間1位**に選ばれるなど、大きな反響がありました。

①『TAKEAKARI』

SDGsを意識して、園内の間伐材に細工を施した竹灯りを作成。**７回のワークショップを通じて、60組の親子連れ**と、個性溢れる作品を制作し、公園メイン園路を彩りました。

②『光るバルーンを空へ飛ばそう』

様々な色に点滅する**LEDを仕込んだバルーン300個を一斉に空に上げ、幻想的な情景を演出**。バルーンの重しには、間伐材を活用したコースターを用いました。三密防止のため、参加者は100人に限定しましたが、**周りの観覧者のSNSや、地元メディア等に多く取り上げられ**、多角的に公園の魅力を発信することができました。

③『アート作品展』

サービスセンターや会場に、**地元のアーティストや、アート教室の子ども達の作品**を展示し、コロナ禍においても様々な工夫で、多くの親子連れがアートを堪能しました。

地域連携による安全安心

事業計画 №3-②-74、③-24／評価区分 30

消防署からの感謝表彰

夏休みの夜間を中心に、園路でのスケボーや、じゃぶじゃぶ池への不法投棄等の不正行為が増加しましたが、警察と連携し、パトロール強化等を行いました。また、頻発したボヤ騒ぎに対しては消防と連携して事故防止に努めるとともに、これまでの協働の取組が評価され、**消防署長から感謝状を授与**されました。

感謝状

公益財団法人東京都公園協会
赤塚公園サービスセンター　殿

貴協会は平素から消防行政に深い関心を寄せられ防火に関する広報を積極的に推進し地域社会の安全安心に寄与されましたここに秋の火災予防運動にあたり深く感謝の意を表します

令和三年十一月十日
東京消防庁
志村消防署長　手塚康長

地域で取り組む赤塚公園のSDGｓ！

事業計画 №3-②-44・48・52、③-4・10、№4-イ-2／評価区分 6、22

近隣学校とのコラボによる取組紹介

来園者への普及啓発活動として、**近隣の高島第三中、西台中、板橋特別支援学校等とコラボした『SDG‘s私たちの取組み』展**を開催しました。生徒達による身近な問題と取組をまとめたレポートや、ゴミを再生して作ったメッセージカード・絵画・気球等の作品展示が、地元メディアに取り上げられるなど、広く関心を高めることができました。

板橋特別支援学校の展示

赤塚の魅力がいっぱい「どんぐりまつり」

ボランティア５団体や板橋区との協働で開催した「どんぐりまつり」は、親子連れなど約350人が来場。公園の素材を活用したクラフト教室や、豊かな生態系を堪能できる崖線部ツアー等、**合計10個のコンテンツを展開**し、赤塚公園の魅力を丸ごと体感いただけました。また、イベントを通じた普及啓発や来園者交流は、ボランティアのモチベーションアップにも繋がりました。

どんぐりまつりの工作ブース

将来に渡る保全活動のために

ボランティアの高齢化による存続危機を打開するため、生態保全に携わる５団体や板橋区と連携して**『ボランティア体験講座』**を開催。新規メンバーを獲得し、次世代継承を推進しました。また、**「ニリンソウ自生地保護活動マニュアル」を7年振りにリニューアルし、主要植物87種の「写真集」を整備**することで、初心者でも活動でき、将来に渡って一貫性を持った手入れを行うことが可能になりました。

地域ニーズの丁寧な把握と管理への反映

事業計画 №3-②-50、③-12・37／評価区分 2、22

近隣学校との協働による魅力アップ

高島支援学校とタイアップした清掃活動では、昨年度の試行で生徒及び来園者の安全も確認できたため、**今年度は学年全体延べ132人に拡大**。来園者からも「ごくろうさま」などと声をかけられることで、相互交流も促進され、生徒達の自信や成長にも繋がりました。**都立高島高校約320人との落葉清掃では、４ｔあまりの落葉を回収**し、社会貢献活動にとどまらず公園に対する愛着も深めてもらえました。

特別支援学校との清掃活動

地域との対話を通じた安全・快適な環境整備

「交差点周辺の石畳が、雨天時に滑る」という住民からの意見を受けて、**東部公園や道路管理者である第六建設事務所と連携**し、双方の管理エリアで作業を分担しつつも、**一体的な滑り止め対策**を行い、転倒事故等の未然防止に繋げました。また崖線部は住宅地に近接し、狭隘な道路が入り組んでいるため、**東部公園や区とも連携しつつ近隣住民との対話を重ねる**ことで、未開園地の応急措置を含めた的確な樹木剪定等を行い、地域ニーズに応えることができました。

石神井公園

所在地：練馬区／開園面積：22.56ha

武蔵野三大湧水地の景観と地域の歴史・文化の継承、及び公園を拠点とした地域活性化

石神井公園のサステナビリティ活動

事業計画 №3-②-46・67、№4-イ-3／評価区分 20、21

自然を学ぶスペシャルイベントの開催

コロナ対策を徹底して「三宝寺池自然誌学校」を開催し、**2日間で2,000人の来場者**をお迎えしました。東部公園緑地事務所ほかボランティア5団体との連携で、生態展示等のブースを展開。新たな「**公園で働く人展**」では、「なぜ大事な木を切るんだ！」など、日頃なかなか理解を得にくい樹木管理等について、正しく知り関心を高めていただけました。また、**特定外来生物への指定が検討されるアメリカザリガニの「回収大作戦」**を実施し、協力してくれた来園者にオリジナル感謝状を進呈することで、外来種の駆除と普及啓発に推進しました。

三宝寺池自然誌学校

石神井公園の魅力を全力発信

コロナ禍ならではの取組として、今年度から新たに石神井公園の自然や季節の魅力を伝える動画配信を開始。さらに、**ツイッターを活用した石神井公園図鑑**を展開するなど、情報発信に力を入れました。その結果、**フォロワー数は2,900人を突破（前年比約150%）**するなど、公園のファンを増やすことに成功しています。

石神井公園図鑑

地域活性化のイノベーターを目指して

事業計画 №3-②-93、№4-事-3 ／評価区分 23

新たな地域イベントの開催

今年度は新たに、地元の民間事業者やアーティスト、石神井図書館など８団体との連携や協賛により、地域の自然や未来について考える「THINK ETHICAL PARK DAY」を開催。SDGsをテーマにした12のブースや、リサイクル本を活用した読み聞かせ会等のパフォーマンスを通じて、地域の豊かな自然を再認識していただけました。また、石神井公園ふるさと文化館や周辺の神社仏閣と連携した「歴史ガイドツアー」は、**コロナ禍におけるマイクロツーリズムの趣旨ともマッチ**し、地域一体となった魅力を感じることで更なる愛着を深めていただけました。

地元連携による12のブースとステージを展開

公園が中心となった地域の問題解決

事業計画 №3-②-74・122／評価区分 1、22

警察や区と連携した不法屋台の排除

隣接する区道上では、**20年以上に渡って不法屋台6台が出店し地域の懸念**となっていましたが、石神井警察署や練馬区と連携した巡回警告や監視、物理的処置により排除に成功しました。公園や道路の動線障害や、ゴミの投棄、水の無断使用等の問題解決とともに、**コロナ禍も相まって噴出していた衛生面への不安や、飲食店の営業自粛からくる不公平感**など、地域の不満も解消され、多くの激励をいただきました。

不法屋台（かつての様子）

みんなで落葉対策「おそうじサンタ」

例年、近隣住宅や道路にも影響がでる大量の落葉対策として、**来園者と連携した新たなクリーンアップ活動「おそうじサンタさんになろう！」**を開始。サンタ帽と装飾した清掃用具を貸出し、落葉でいっぱいにしたゴミ袋をプレゼント袋に見立ててもらうというアイデアが親子連れにうけて、**90ℓのゴミ袋で350袋の落葉を回収**に成功しました。楽しみながらの清掃活動で園内美化はもとより、公園への愛着も深めてもらえ、落葉で困っていた近隣の理解も取付けることができました。

おそうじサンタによる清掃活動

都民協働による生物多様性保全の取組み

事業計画 №3-③-5、6、12／評価区分 6、22

準絶滅危惧「イヌタヌキモ」の保全

近隣の石神井中学校より校内のビオトープで育成されていた水草の同定を依頼され、調査した結果、絶滅危惧Ⅱ類の「イヌタヌキモ」であることが判明しました。**管理に困っていた中学校からのSOSを受けて、ボランティアと連携して保全作業をサポート**。また、**リスク分散のため水辺観察園でも株分けの試験栽培を開始**しました。地域一体となった生物多様性を推進するとともに、イベント等を通じた生態保全の普及啓発を行いました。

準絶滅危惧「イヌタヌキモ」の保全活動

野草観察園のリニューアル

24年の歴史を有する野草観察園のボランティアとともに、施設の更なる利活用に向けた、管理方針の見直しを実施。**テーマ毎に7つのゾーンに分け、258種に及ぶ野草リストを作成するとともに、QGISを活用したマッピング等**によって、体系的な保全管理が可能となりました。また、見頃の野草などを紹介する**インフォメーションボードの新設や、ボランティアによる「ちょこっと解説」の開始**によって、利用者の増加に繋げることができました。

ゾーン分けした野草観察園

大泉中央公園

所在地：練馬区／開園面積：10.30ha

隣接公園と一体となった
健やか自然ふれあい公園づくり

みんなが主役「みる・さわる・たのしむ」キッズプロジェクト

事業計画 №3-②-24・41、№4-イ-2／評価区分 20

子どもの参加型・自然観察プログラムの開始

コロナ対策を徹底しながら、**親子連れ向けに「みる・さわる・たのしむ」をテーマにした新たな観察会**を展開しました。職員作成の「しぜんたいけんマップ」をもとに、一年を通じたガイドを実施。夏はアゲハチョウの幼虫やカマキリ、冬は冬眠中の昆虫などを、様々な生物や植物に触れ、大泉の生物多様性を体感してもらいました。参加者には、**発生材を活用した「木のメダル」を贈呈**することで達成感を高めるとともに、公園のファンを増やしています。（6月～1月に12回開催：212人参加）

昆虫をじっくり観察

子ども向けコミュニティボードの新設

ちょうの里には新たに、子ども達の目線に合わせて高さやデザインを工夫した**コミュニティボードを設置**しました。タイムリーな自然情報やクイズ出題に加えて、**子ども達が気軽にモニタリングを行い、成果を発表できる「たんけんマップ」**を掲出するなど参加型の掲示板にすることで、公園や自然への愛着を深めてもらうことができました。

ちょうの里たんけんマップ

地域一体となったダイナミックな管理運営

事業計画 №3-②-26・94、№4-自-4・5／評価区分 23

3公園・地域連絡協議会や合同イベントの開催

隣接する埼玉県営和光樹林公園と、練馬区立さくら運動公園からなる**3公園・連絡協議会をリードし、**コロナ対策でも公園間での齟齬や地域の混乱等が生じないよう、足並みを揃えて対応しました。また、地域一体となった賑わいの創出のため、**「3公園を巡るキッズチャレンジ」「3公園・2緑道を巡るノルディックウォーキング」「クリーンアップキャンペーン」**等を合同で開催し、都／県／区等の垣根を超えた連携で地域の回遊性を高めました。

合同イベント「キッズチャレンジ」

地域一体となった取組の推進

事業計画 №3-②- 81・ 92、№4-自-3／評価区分 13、23

インクルーシブな公園づくり

コロナ禍による学園祭の中止等で作品発表の場が失われていることや、外出する楽しみを増やしたい等の声を受けて、**都立大泉特別支援学校と新たにコラボしたアート展**を開始しました。園内3箇所の掲示板や広場に展示した個性的な作品で雰囲気が明るくなるとともに、来園者が生徒達の感性に触れることで自然と会話も生まれ、**相互理解が促進**されました。生徒達からも「皆に見てもらえて嬉しい」等の感謝の言葉を多数いただくことができました。

５ｍ×４ｍの大作「四季」

警視庁×県警で、災害対応力アップ

サービスセンターの働きかけによって、都県境を超えた**警視庁・石神井警察署＆埼玉県警・朝霞警察署との合同防災訓練**が実現。公園の防災機能や緊急車両の進入経路、発災時の避難誘導等について幅広く情報共有と意見交換を行い、連携を強化しました。また、隣地の**朝霞駐屯地が東京2020大会の射撃会場となり、利用者増加やテロ等が懸念**されたことから、協働してゴミ箱や植込み等の死角除去や巡回点検等を行い、園内の安全安心を確保することができました。

両警察との合同防災訓練

大泉中央公園の生態保全と普及啓発活動

事業計画 №3-②-40・83、③-5、№4-自-2／評価区分 6、21、23

保全活動によってチョウの種類や数がアップ

選択除草や食草の育成促進によって、都市部では貴重な**ジャコウアゲハの産卵から羽化へのサイクルが園内で多数観察**されました。さらに、ジニア・ブッドレア等の花付きが良く花期が長い蜜源植物を増やした結果、**確認できたチョウは昨年度から9種増の32種となり**、来園者からも「チョウが増えて華やかになった」と評価されています。また、「セイヨウタンポポ」約300株を駆除し、「カントウタンポポ」の保全を推進しました。

産卵するジャコウアゲハ

インフォメーションコーナーの新設

積極的な情報発信のため、サービスセンター前に**インフォメーションコーナーを設置**。毎月発行の「わくわく自然ガイド」等のパンフ配布や、昆虫等の生態展示、教育玩具の販売などを通じて、**多くの来園者が大泉の豊かな自然に関心を寄せ、**昆虫等の乱獲防止やマナーアップに繋げることができました。また、ツイッターでほぼ毎日、自然情報を発信することで、フォロワー数は1,438となり（昨年比：145％）、着実にファンを増やしました。

インフォメーションコーナー